

学術研究賞・国内部門

氏名 中根 千枝
(なかね ちえ)

生年月日 1926年11月30日(64歳)

国籍 日本



プロフィール

東京に生まれた中根千枝氏は、父の仕事のため中国に移り、少女時代を大陸で過ごした。この体験が、同氏の目をアジアへ向けるきっかけとなり、後の研究に多くの影響を及ぼしている。

帰国後、津田塾大学を経て東京大学、同大学院に進み、中国とチベットを中心に東洋史学を専攻した。1953年から57年の間に北インド、アッサム地方等でフィールドワークを行い、イギリス、イタリアに留学し、社会人類学、チベット史の研究を重ねる。その体験に基づく『未開の顔・文明の顔』は、人々の異文化への関心を高め、人類学界へ新風を吹き込んだ。その後、研究はアジア全域へわたり、その豊富な調査と比較の視点をもつ考察により、アジア諸民族の社会的特質をとらえ、日本における社会人類学の研究を飛躍的に進展させた。代表的な母系社会論、家族構造論、社会構造論は、評価が高く、特に「タテ社会論」は各国で紹介され、世界的に日本に対する理解を深めている。

一方、多くの研究者を養成し、国際会議等においてめざましい活躍をなし、その高い国際性を生かして世界のアジア理解促進に多面的に大きな貢献を果たしている。

主な著作

『未開の顔・文明の顔』1959

『Kinship and Economic Organization in Rural Japan』ロンドン,1967

『Garo and Khasi-A Comparative Study of Matrilineal Systems』パリ,1967

『タテ社会の人間関係——単一社会の理論』1967 (『Japanese Society』ロンドン,バークレイ,1970)

『家族の構造——社会人類学的分析』1970 『適応の条件——日本的連続の思考』1972 『家族を中心とした人間関係』1977

『タテ社会の力学』,『日本人の可能性と限界』1978

『社会人類学——アジア諸社会の考察』1987

『Tokugawa Japan-The Social and Economic Antecedents of Modern Japan』〈共編〉1990